

REGAL

第174期 中間決算説明資料

平成17年4月1日 ▶ 平成17年9月30日

株式会社 リーガルコーポレーション

■ 目次

ごあいさつ 平成17年9月中間決算概要	1
対処すべき課題 通期の見通し	2
中間決算ハイライト（連結）	3
中間連結財務諸表（要約）	4
中間個別財務諸表（要約）	5
会社情報	6
TOPICS	7
TOPICS	8

■ ぐあいさつ

皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに第174期上半期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。
平成17年12月



代表取締役社長 伊藤 利男

平成17年9月 中間決算概要

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業部門の収益の改善や設備投資の増加、雇用・所得環境の改善などにより緩やかな回復基調で推移いたしました。原油価格が高騰するなど懸念材料も顕在化いたしました。

靴業界におきましては、紳士靴は、クールビズ効果による購買への動機づけが高まったことなどにより堅調に推移いたしました。婦人靴につきましては、サンダル等の春夏季節品の販売不振などにより顕著な伸びはありませんでした。

このような環境の中で、当社グループは、事業カテゴリーを軸とした営業体制の下で、高付加価値商品の提案やカジュアル・コンフォート商品の強化、また、取引先とともに特注品開発を行うなど積極的な営業活動に取り組んでまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は170億7千4百万円（前年同期比2.5%増）、経常損失は5千6百万円（前中間経常損失5千3百万円）となりました。しかしながら、生産子会社を解散したことによる割増退職金等を特別損失に計上したことなどから中間純損失は3億9千6百万円（前中間純損失1億2百万円）となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

①小売部門

小売部門につきましては、天候に恵まれたことやクールビズの影響などにより、カジュアル商品を中心として好調に推移いたしました。また、当社グループの直営小売店数は、中国で初めての靴小売の外資100%会社「上海麗格鞋業有限公司」を上海に設立し「上海リーガル」を出店したことなどにより、合計74店（前年中間期末68店）となりました。この結果、当中間連結会計期間の売上高は、52億9千7百万円（前年同期比19.7%増）となりました。

②卸売部門

卸売部門につきましては、紳士靴は、リーガルシューズ店や百貨店においてカジュアル商品を中心に好調に推移いたしました。中級ビジネス商品の不振を補うまでには至りませんでした。婦人靴は、ナチュラルライザーなどの中級ブランドの新規展開を拡大したものの、市場のカジュアル化傾向の影響を受け、エレガンス商品やサンダル等の季節品の売上が低迷いたしました。この結果、当中間連結会計期間の売上高は、112億7千4百万円（前年同期比4.1%減）となりました。

③その他事業

靴材料の販売などその他事業の売上高は、5億1百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

対処すべき課題

当社グループは、以下の課題に取り組んでおります。

①組織の効率化、合理化をさらに進めてまいります。

開発から販売までを一体化した紳士営業部、婦人営業部により、ブランド特性にふさわしい販売チャネル（業態）を明確にした活動を継続しております。

②店頭売上を重視した営業活動を継続してまいります。

得意先のパートナーとして、得意先ごとの問題解決を支援する提案型の営業活動を行っております。

③店頭情報収集システムの整備やPOSの導入等を行ってまいります。

ハンディターミナルや新POSを利用して、店舗単位での売れ筋商品等の鮮度の高い店頭情報を収集し、在庫の適正化や商品開発に活用してまいります。

通期の見通し

当社グループは、主カブランド「リーガル」のカジュアル商品開発専任チームを発足させてカジュアル化傾向や少子高齢化に対応した商品開発を行うことや、主要取引先との共同開発によるOEM商品や特注品の拡販など提案型の営業活動を強化してまいりますとともに、10月31日には「リーガルシューズ新橋店（東京都港区）」、11月16日には当社都内最大級の広さと品揃えをもったリーガルブランドの旗艦店「リーガル日本橋店（東京都中央区）」を出店するなど直営小売店の出店にも注力してまいります。

通期の見通しにつきましては、以下の業績を見込んでおります。

平成18年3月期の連結業績予想

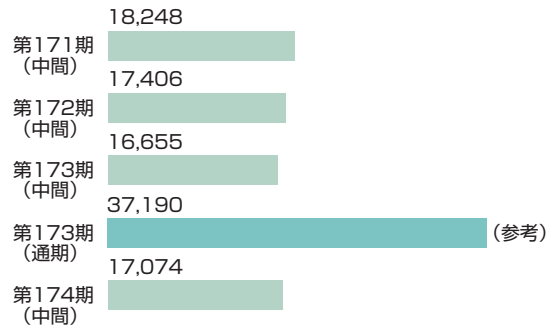
（単位：百万円 未満切捨）

	当期（予想）	前期実績	前期比（%）
売上高	37,700	37,190	1.4%増
経常利益	600	563	6.6%増
当期純利益	150	357	58.0%減

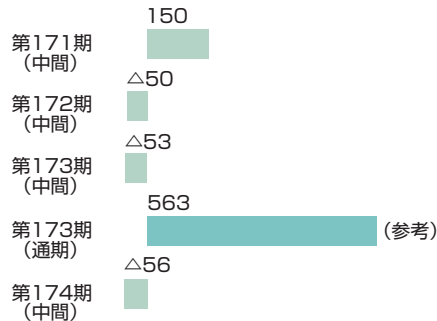
※上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。

■ 中間決算ハイライト(連結)

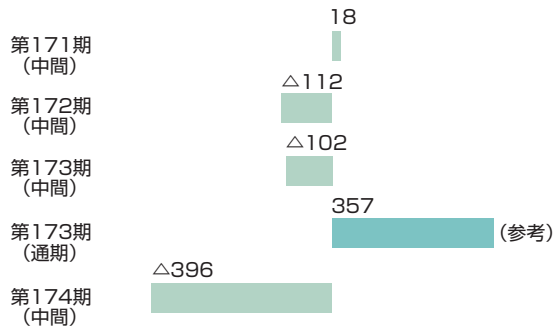
■ 売上高 (百万円)



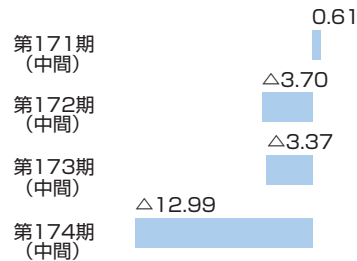
■ 経常利益又は経常損失 (△) (百万円)



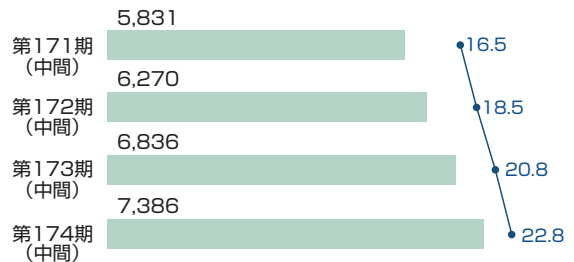
■ 中間純利益又は中間純損失 (△) (百万円)



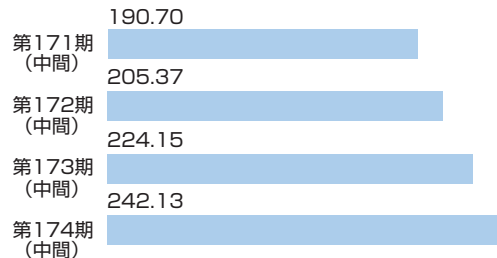
■ 1株当たり中間純利益又は中間純損失 (△) (円)



■ 株主資本 (百万円) ■ 株主資本比率 (%)



■ 1株当たり株主資本 (円)



■ 中間連結財務諸表（要約）

中間連結貸借対照表

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在
● 資産の部		
流動資産	18,003	18,819
固定資産	14,349	13,978
有形固定資産	4,756	4,831
無形固定資産	25	26
投資その他の資産	9,567	9,120
資産合計	32,352	32,797
● 負債の部		
流動負債	17,203	18,085
固定負債	7,709	7,875
負債合計	24,913	25,960
● 少数株主持分		
少数株主持分	52	0
● 資本の部		
資本金	5,355	5,355
資本剰余金	2,701	2,701
利益剰余金	△2,811	△2,861
土地再評価差額金	1,454	1,440
株式等評価差額金	937	452
為替換算調整勘定	1	—
自己株式	△ 251	△ 251
資本合計	7,386	6,836
負債、少数株主持分及び資本合計	32,352	32,797

中間連結損益計算書

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
● 経常損益の部		
売上高	17,074	16,655
売上原価	10,709	10,432
売上総利益	6,364	6,223
販売費及び一般管理費	6,344	6,182
営業利益	20	40
営業外収益	158	162
営業外費用	234	256
経常損失	56	53
● 特別損益の部		
特別利益	37	40
特別損失	276	10
税金等調整前中間純損失	295	22
法人税、住民税及び事業税	20	30
法人税等調整額	83	50
少数株主損失	△ 3	△ 1
中間純損失	396	102

中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△697	△486
投資活動による キャッシュ・フロー	△214	△110
財務活動による キャッシュ・フロー	598	31
現金及び現金同等物 に係る換算差額	1	—
現金及び現金同等物の 減少額（△）	△312	△565
現金及び現金同等物の 期首残高	2,090	2,533
連結子会社増加に伴う 現金及び現金同等物の 増加額	100	—
現金及び現金同等物の 中間期末残高	1,877	1,968

■ 中間個別財務諸表（要約）

中間貸借対照表

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成17年9月30日現在	平成16年9月30日現在
● 資産の部		
流動資産	22,425	23,513
固定資産	10,142	9,749
資産合計	32,567	33,263
● 負債の部		
流動負債	16,577	17,485
固定負債	5,808	5,776
負債合計	22,386	23,261
● 資本の部		
資本金	5,355	5,355
資本剰余金	2,701	2,701
利益剰余金	56	215
土地再評価差額金	1,454	1,440
株式等評価差額金	619	293
自己株式	△ 5	△ 3
資本合計	10,181	10,001
負債、資本合計	32,567	33,263

中間損益計算書

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで
売上高	15,763	15,578
売上原価	10,696	10,499
売上総利益	5,066	5,078
販売費及び一般管理費	4,875	4,862
営業利益	191	216
営業外収益	131	153
営業外費用	243	288
経常利益	79	81
特別利益	10	—
特別損失	292	0
税引前中間純利益又は 税引前中間純損失（△）	△202	81
法人税、住民税及び事業税	9	7
法人税等調整額	10	32
中間純利益又は 中間純損失（△）	△222	41
前期繰越利益	293	173
土地再評価差額金取崩額	14	—
中間未処分利益	56	215

■ 会社情報

会社の概況（平成17年9月30日現在）

- 設 立
明治35年1月21日
- 本店所在地
〒120-8553 東京都足立区千住橋戸町2番地
電話 03(3888)6111(代表)
- 資 本 金
53億5千5百万円
- 事業内容
紳士靴、婦人靴、安全靴および諸官庁向特殊靴等の企画、生産、仕入、販売
- 従業員数
246名
- 事 業 所
本店 大阪支店 名古屋営業所
- REGAL ichigaya（ショールーム）
〒162-0843 東京都新宿区市ヶ谷田町2-16安信ビル1F
電話 03(5228)5005

関係会社（平成17年9月30日現在）

- 販売会社

(株)フィット北日本	(株)フィット東北日本	(株)フィット関東日本
(株)フィット東日本	(株)コースト※	(株)フィット中部日本
(株)フィット近畿日本	(株)ジーベック	(株)フィット西日本
(株)タップス	(株)タップスウェスト	(株)ニスコ※
(株)ニッカ	東北リーガルシューズ(株)	上海麗格鞋業有限公司
- 生産会社、他

岩手製靴(株)	岩手シューズ(株)	米沢製靴(株)
鹿児島製靴(株)※	チヨダシューズ(株)	他5社

※現在、清算中の会社。

TOPICS

REGALブランドの中国小売事業が始動 上海に直営1号店がオープンしました。

当社と伊藤忠商事グループが中国国内で「REGAL」の靴小売運営を行う合弁会社、上海麗格鞋業有限公司を今年7月に設立しました。外資100%の靴の小売ライセンスが許可されたのは初めてのケースです。

9月16日には上海中心部に直営1号店をオープン。今後はブランドの認知向上と小売展開を進めていきます。今後の出店計画は2年以内に上海で2店舗を展開していく予定です。

同店では、高いクオリティと美しいデザインをあわせもったREGALブランドや、時代に左右されないベーシックアイテムからトレンドを意識した国際的なアイテムまで取り扱います。また、パターンオーダー靴、フルオーダー靴（随時）、修理にも対応する予定です。かつ、質の高い接客を提供いたします。

[会社概要]

社名 上海麗格鞋業有限公司 (Shanghai REGAL shoes co.,Ltd.)

麗格は中国語の読みがリーガルで、かつ美しい文字を選んでいきます。

[店舗概要]

所在地 上海市淮海中路688号 華獅購物中心201

淮海中路は上海でも有数の繁華街です。その中ほどに位置する高級志向のファッションビルです。当社店舗はその2階に位置します。

面積 123㎡

陳列（開店時） 紳士靴85～90アイテム 婦人靴40アイテム 子供靴15アイテム

価格帯 1,500～8,000RMB（中心価格2,500RMB）

店舗関連写真



「MAX&CO」や香港SPA「I.T」も出店する高級志向のモール、華獅購物中心このビルの2階に上海リーガルがオープンしました。



店舗入り口。シルバーのファサードに「REGAL」のロゴ、全面ガラスでシャープなイメージを打ち出す。



グッドイヤーを中心に構成するプレステージドレス。

■ TOPICS

東京・日本橋に「リーガル日本橋店」がオープンしました。

11月16日にオープンした「リーガル日本橋店」は、当社都内最大規模の51坪の店舗スペースに、現行「REGAL」のほぼ全モデルに当たる約500アイテムを展開しています。

去る10月31日にオープンしたリーガルシューズ新橋店（43坪）に続く大型店舗で、既存の八重洲、銀座、数寄屋橋の店舗とあわせ、日本有数のビジネスマンを有するエリアをカバーします。



所在地
東京都中央区日本橋1-13-1 日鐵日本橋ビル
TEL 03-5203-2121